

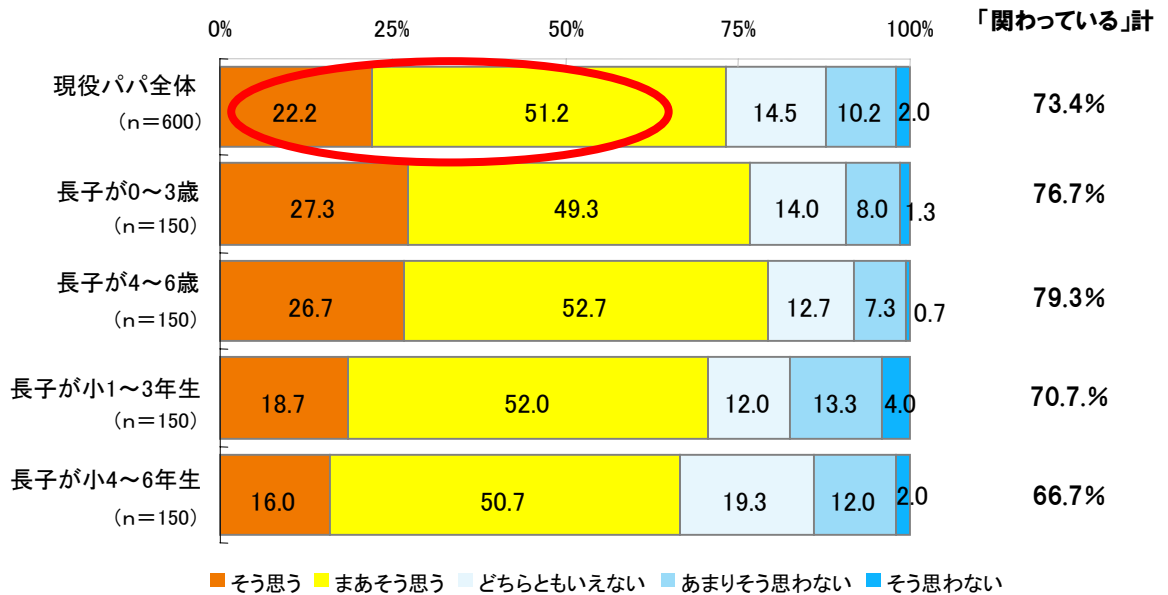
①-1 「子はかすがい」から「子育てはかすがい」へ（現役パパの子育て意識）

<子どもへの関わり>

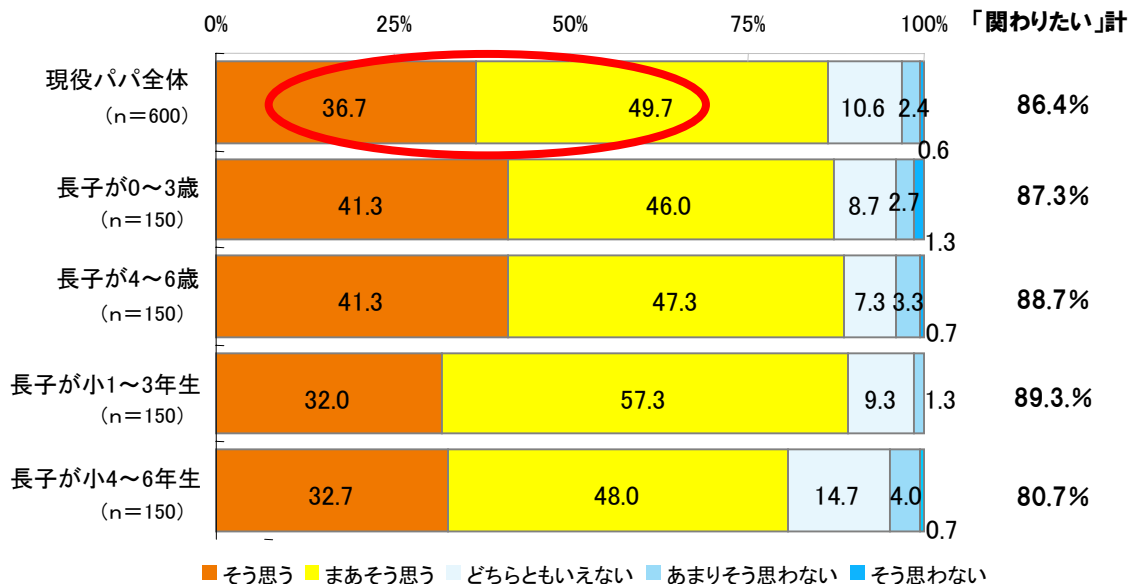
・父親の子育てはもはや当たり前。73%が「現在、関わっている」と答え、86%が「今後も関わりたい」と考えている。

図1

現在、子どもと関わっている



今後も子どもと関わりたい

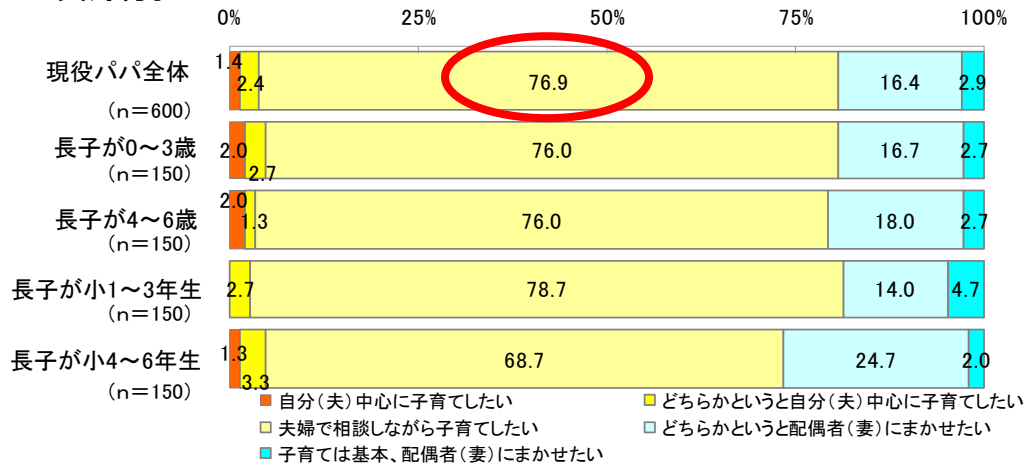


①-2 「子はかすがい」から「子育てはかすがい」へ（現役パパの子育て意識）

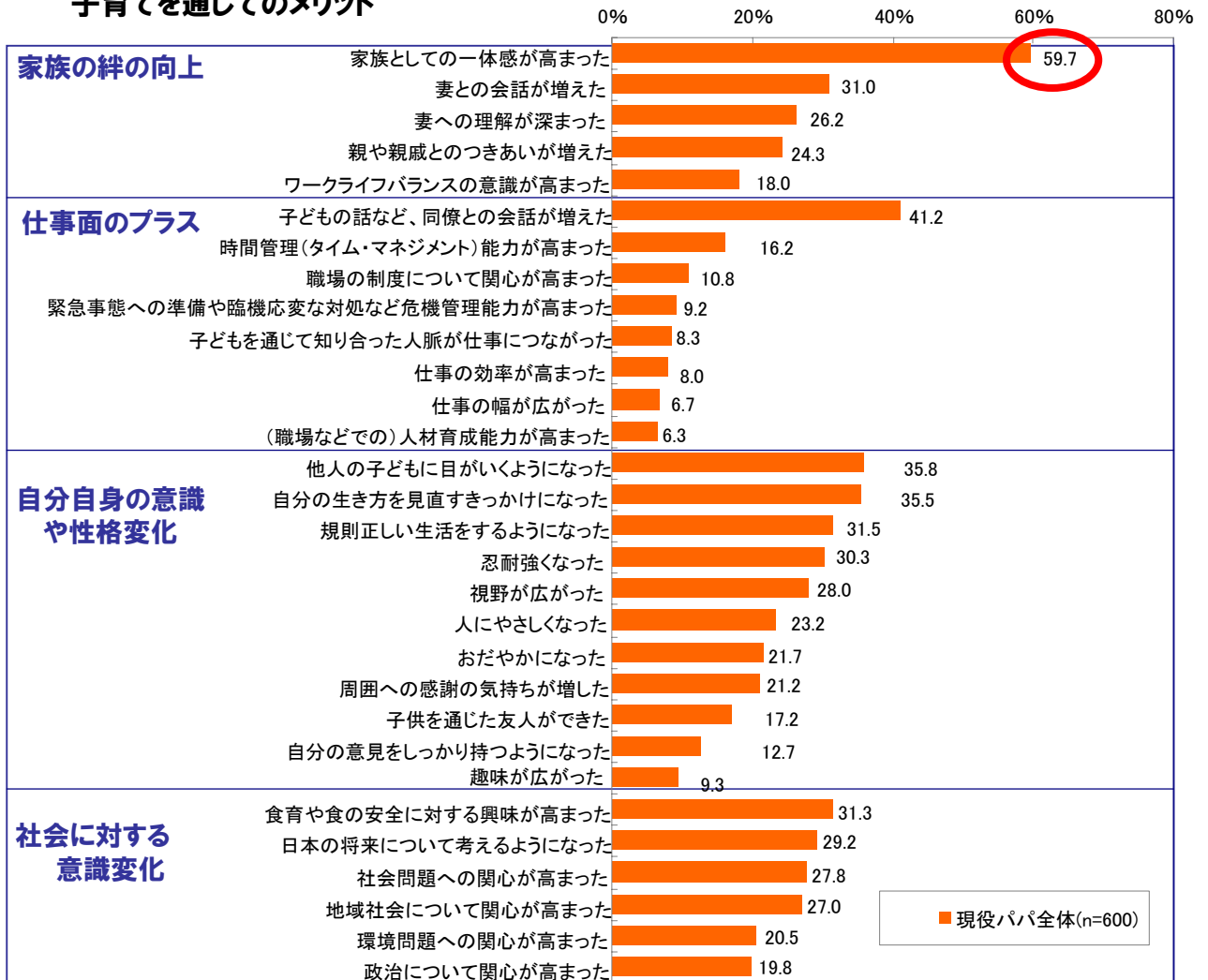
<子育ての夫婦分担と子育てを通じてのメリット>

・77%が「夫婦で相談しながら子育てしたい」と考え、60%が子育てによって「家族としての一体感が高まった」ことを実感。今や「子はかすがい」から「子育てはかすがい」の時代へ。

図2 子育ての夫婦分担について



子育てを通じてのメリット

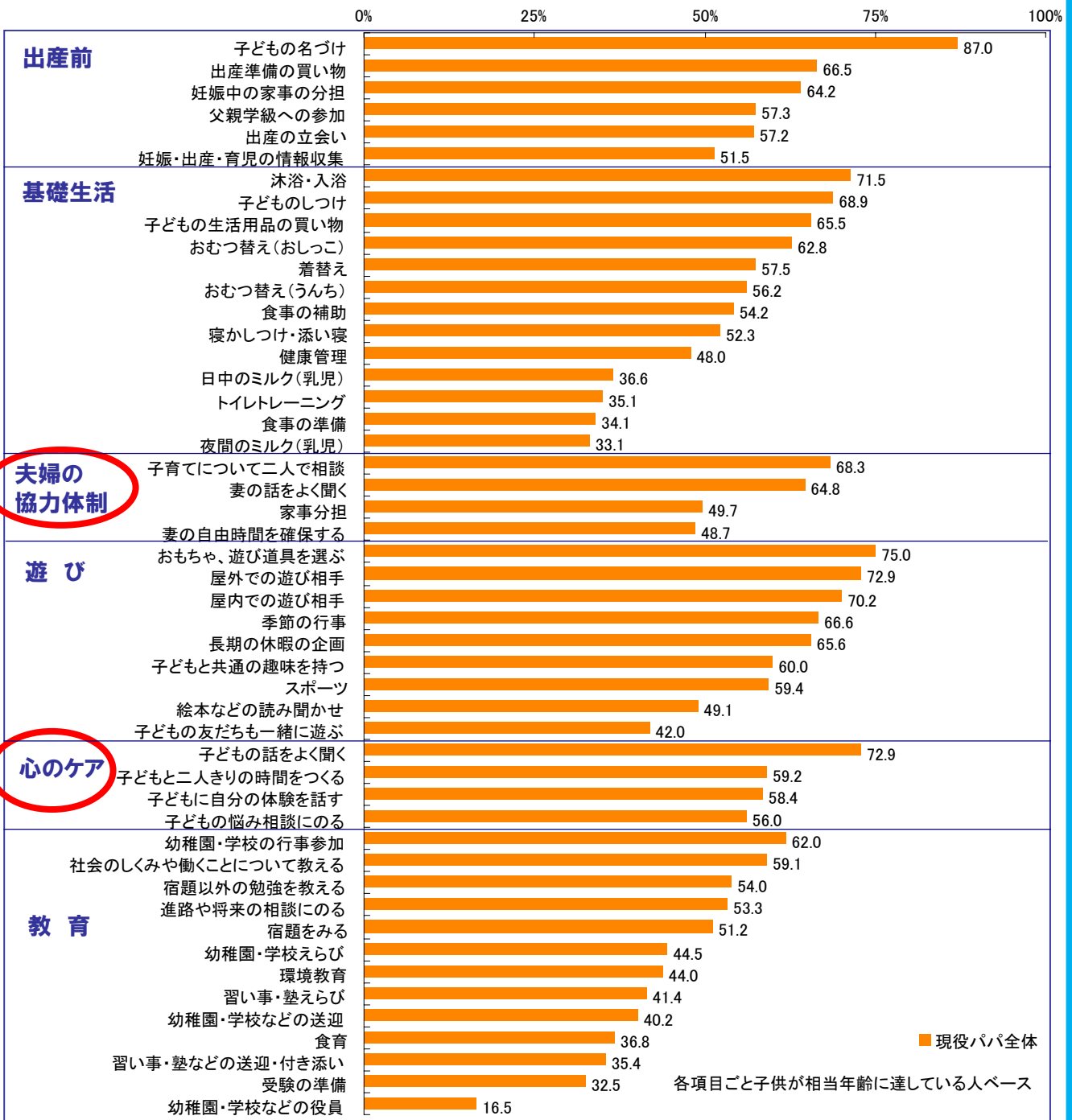


①-3 「子はかすがい」から「子育てはかすがい」へ（現役パパの子育て意識）

<子育てへの自主的・積極的関わり度合い>

・自主的・積極的に子育てに関わる父親たち。入浴、外遊び、学校・幼稚園の行事参加などの従来型に加え、「着替え」「寝かしつけ」「子どもと2人きりの時間をつくる」「妻の自由時間を確保する」など、日常生活、遊び、教育、心のケア、夫婦の協力体制まで、幅広く自主的・積極的に関与。

図3 自主的・積極的に関わってきた 計



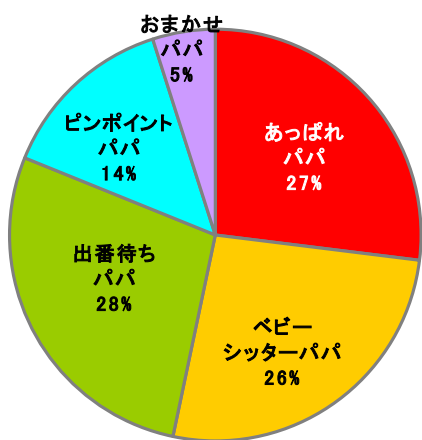
①-4 「子はかすがい」から「子育てはかすがい」へ（現役パパの子育て意識）

＜小学生以上の子どもをもつ現役パパの5つのタイプ＞

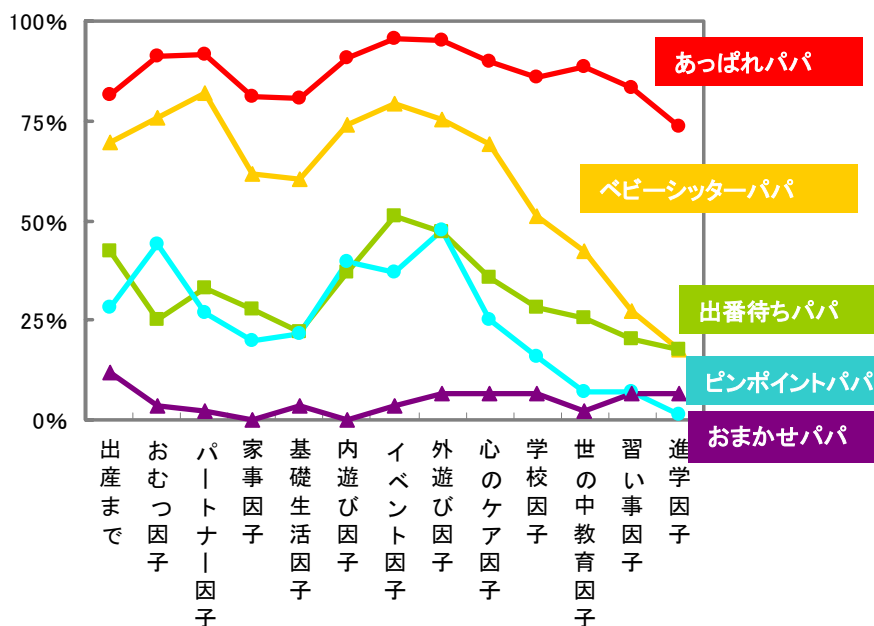
- 小学生以上の子どもをもつ、現役パパを子どもとの関わり方で分類すると、「あっぱれパパ」「ベビーシッターパパ」「出番待ちパパ」「ピンポイントパパ」「おまかせパパ」の5タイプに。

図4

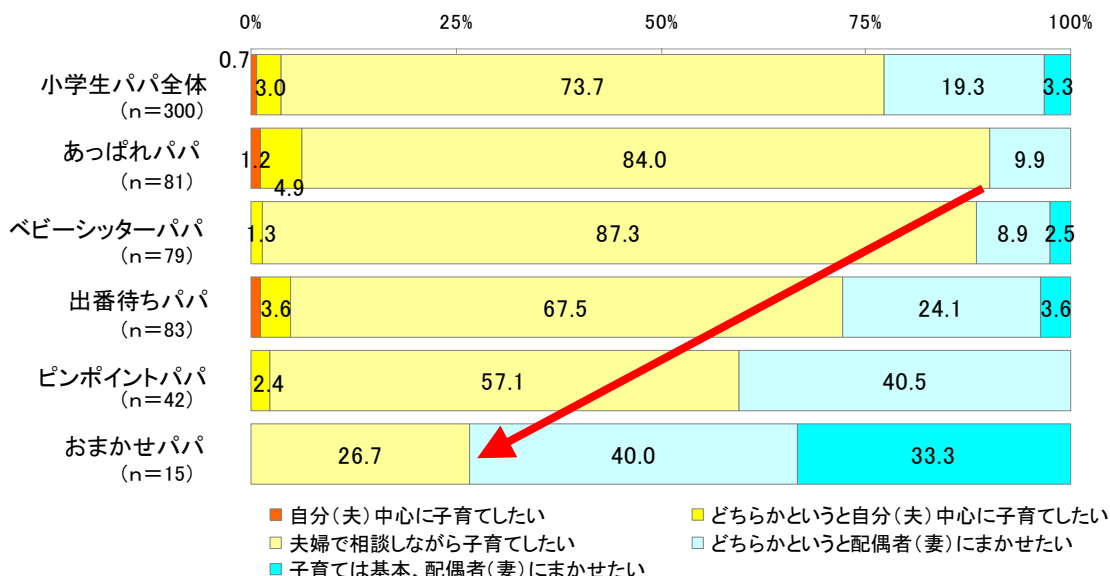
5タイプの構成比



5タイプ別特性



5タイプ別 子育ての夫婦分担について

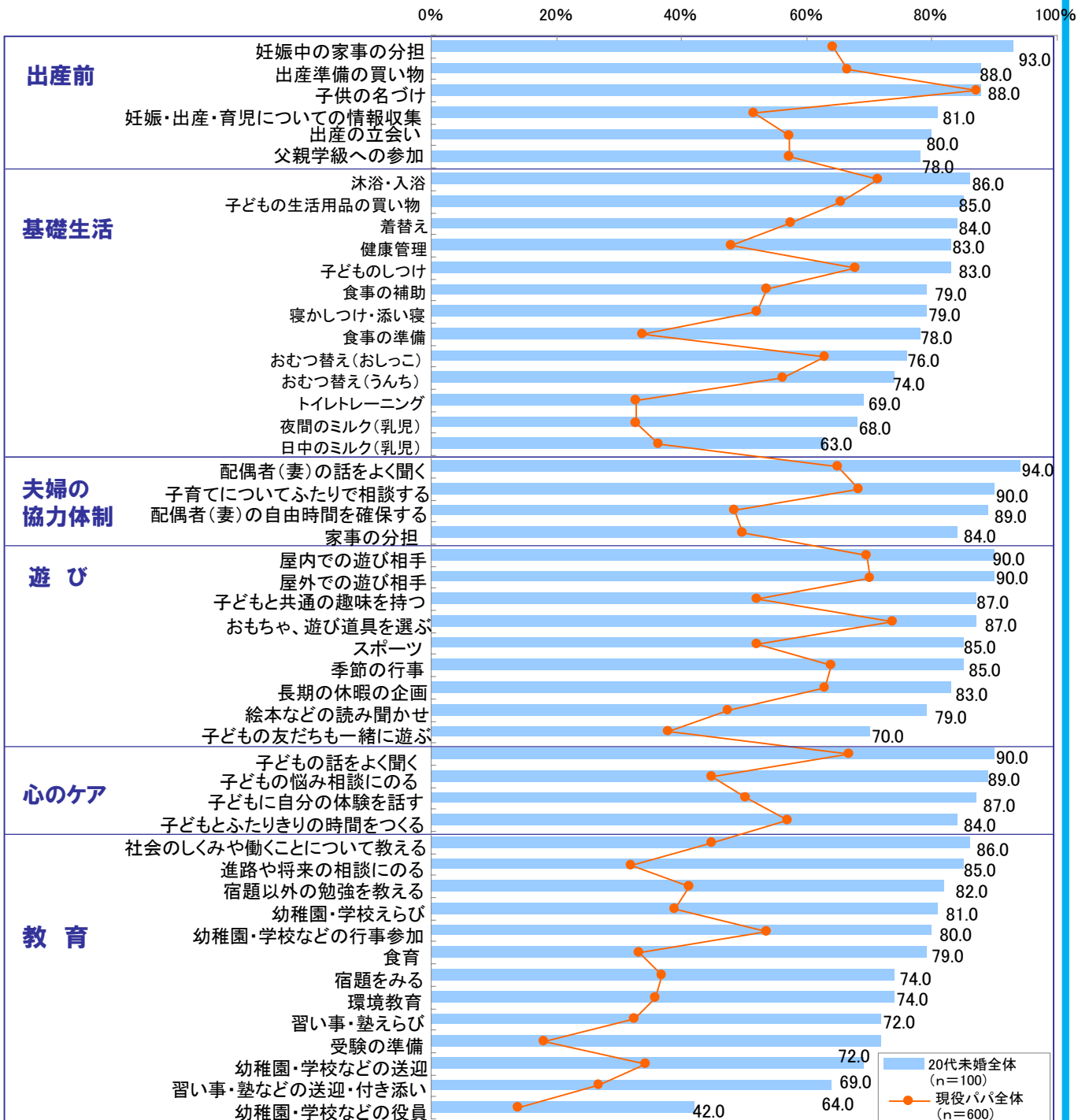


②-1 現役パパを上回る子育て意欲（20代未婚男子の子育て意識）

<20代未婚男子の子育て意欲>

・結婚意向をもつ20代未婚男性の87%が、将来「子どもと積極的に関わりたい」。
現役パパを上回る子育て意欲。結婚前から膨らむ子育てへの夢。（図5参照）

図5 今後積極的に関わりたいこと



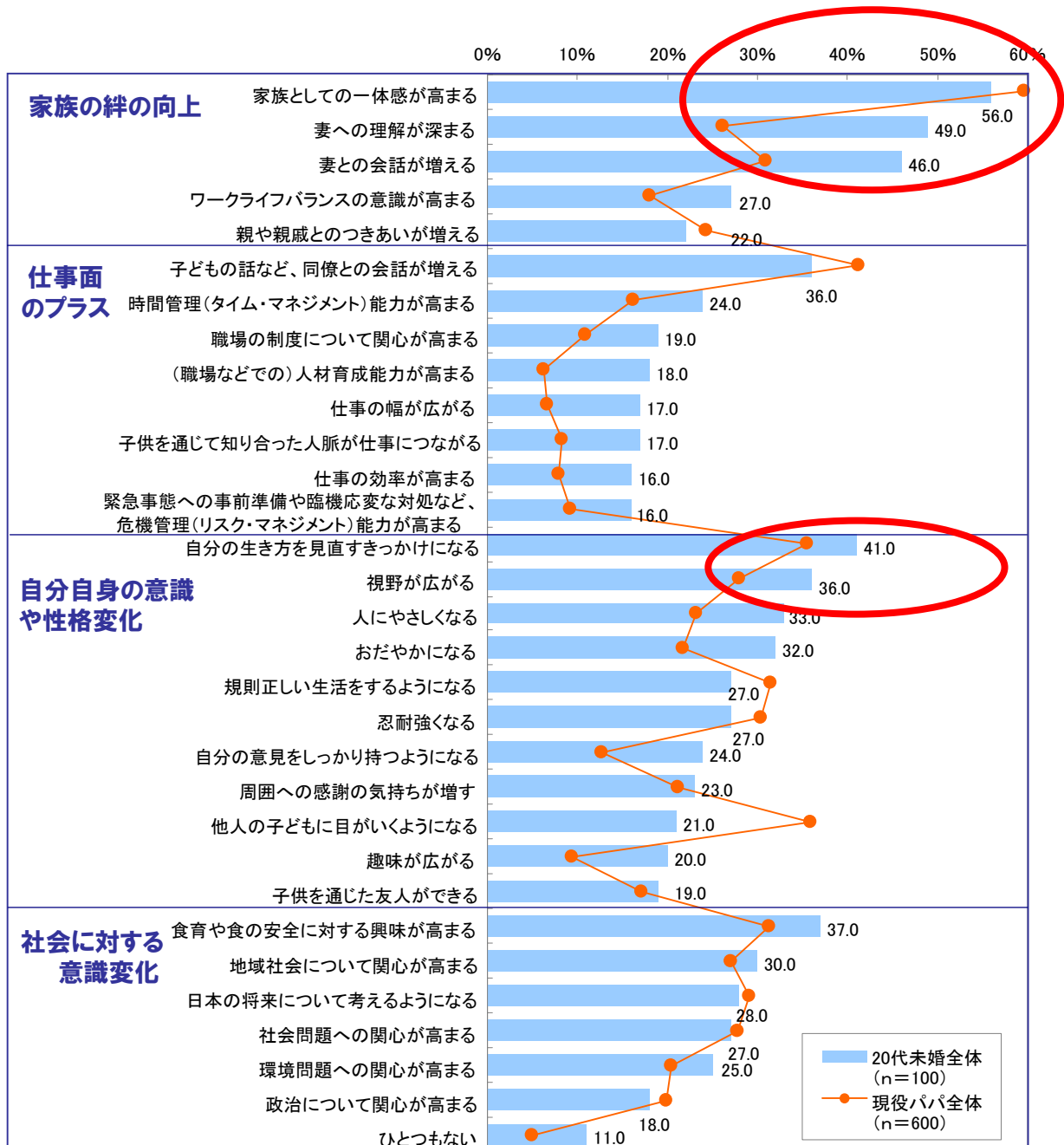
* 数値は20代未婚男性のもの

②-2 現役パパを上回る子育て意欲（20代未婚男子の子育て意識）

<20代未婚男子の子育てを通じてのメリットへの考え>

・子育てに期待することは、「家族の絆の向上」と「自分の生き方を見直すきっかけになる」こと。

図6
子育てを通じて得られた／得られると思うメリット



* 数値は20代未婚男性の結果

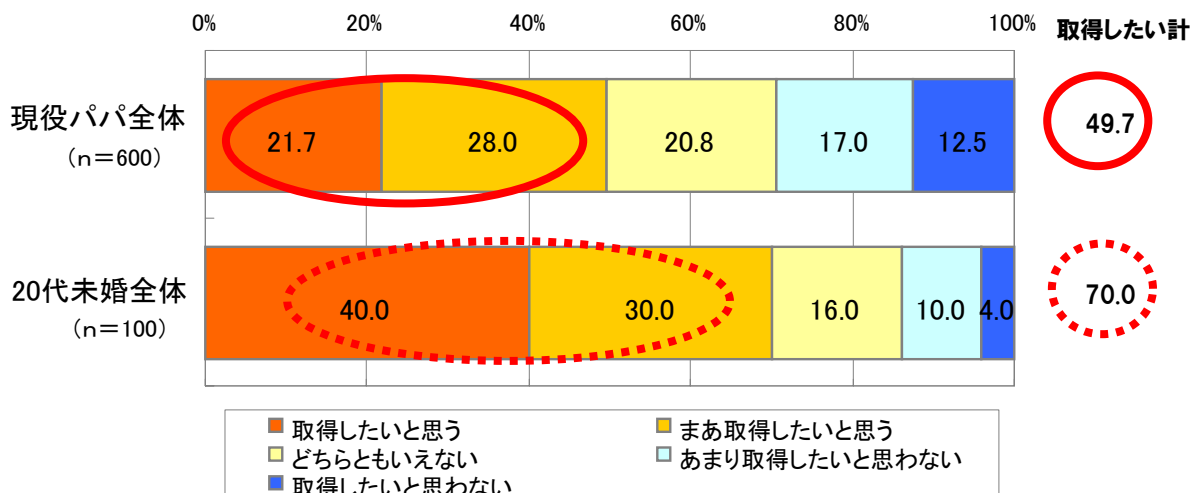
③-1 育休の理想と現実 <現役パパと20代未婚男性の育休への意識>

<育休取得意向>

- ・父親も育児休業を取得したい。現役パパの50%が育休取得意向あり。(20代未婚男性の育休取得意向は現役パパより高く、7割にのぼる)。
- ・現役パパの育休取得期間の理想は1ヶ月以上、現実には1週間以下。



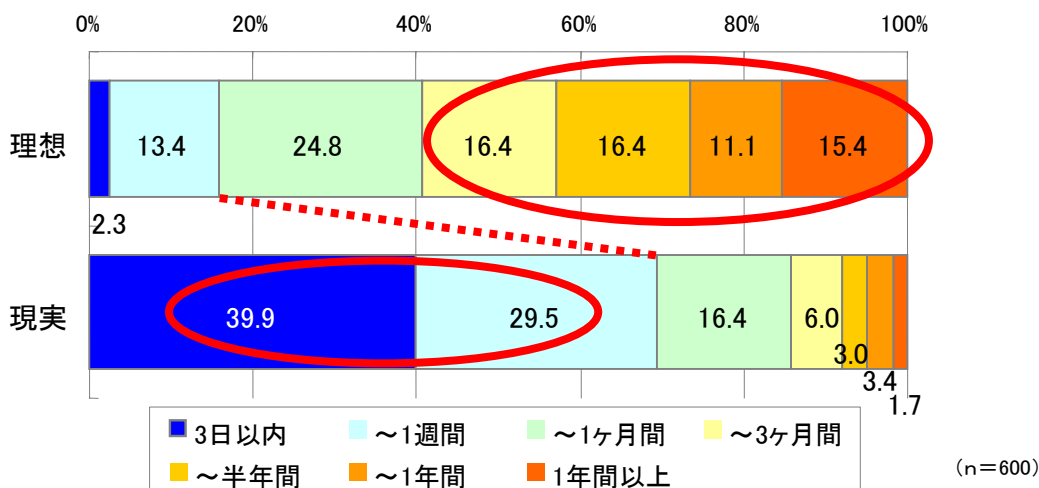
育休取得意向



◇現役パパの「取得したい理由」

- ・育児に積極的に取り組むことで、妻の負担軽減や、子どもと密な時間を過ごしたいと思うので。(「長子小1～小3年生」のパパ)
- ・フルタイムで育児に関わってみたい、世の中の見方が変わるかもしれない。(「長子小4～6年生」のパパ)
- ・子どもと一緒にいられる時間が増え、家族全体のコミュニケーションが図れる。(「長子0～3歳」のパパ)

理想と思う育休期間と現実的に取得できそうな期間(現役パパ全体)



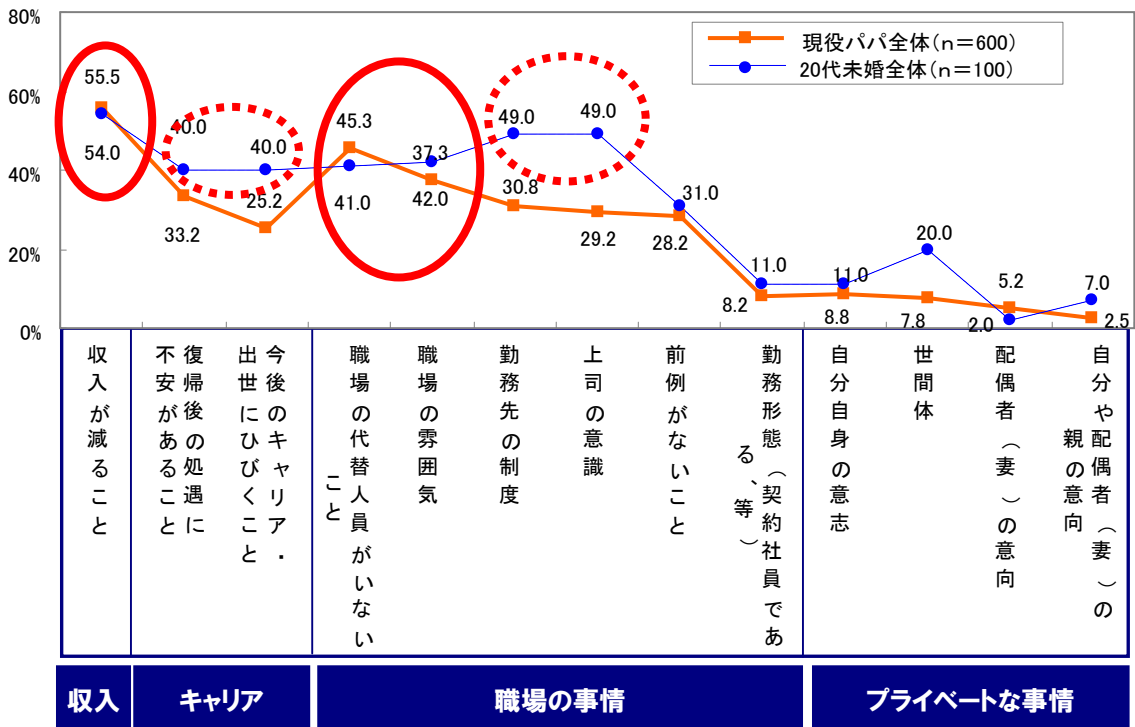
③-2育休の理想と現実 <現役パパと20代未婚男性の育休への意識>

<育休取得の障害>

・父親の育休取得の障害は、「収入減」「職場の事情」。(20代未婚男性は取得意向が高い一方で障害への不安も強く、「収入減」「職場の事情」だけでなく、「キャリア形成」上も障害になると感じている)。



育休取得の障害



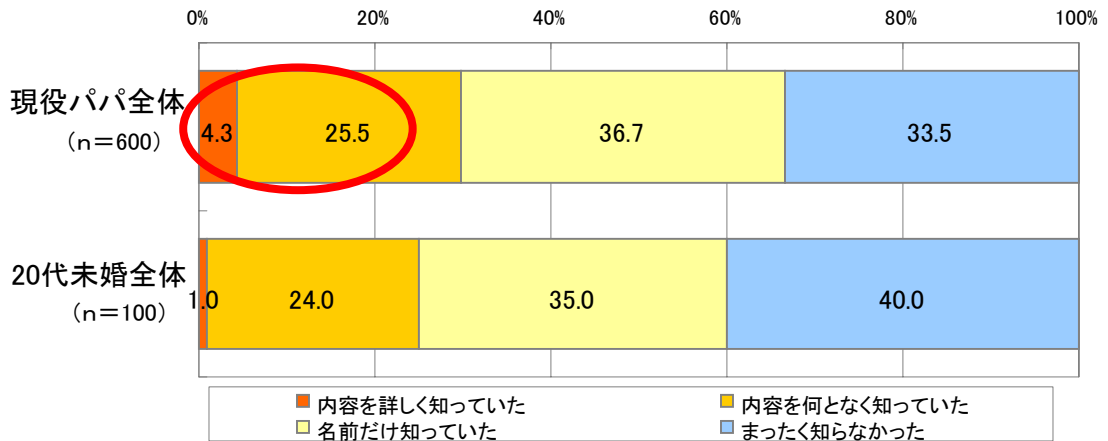
③-3育休の理想と現実 <現役パパと20代未婚男性の育休への意識>

<改正育休法の認知と改正育休法による変化予想>

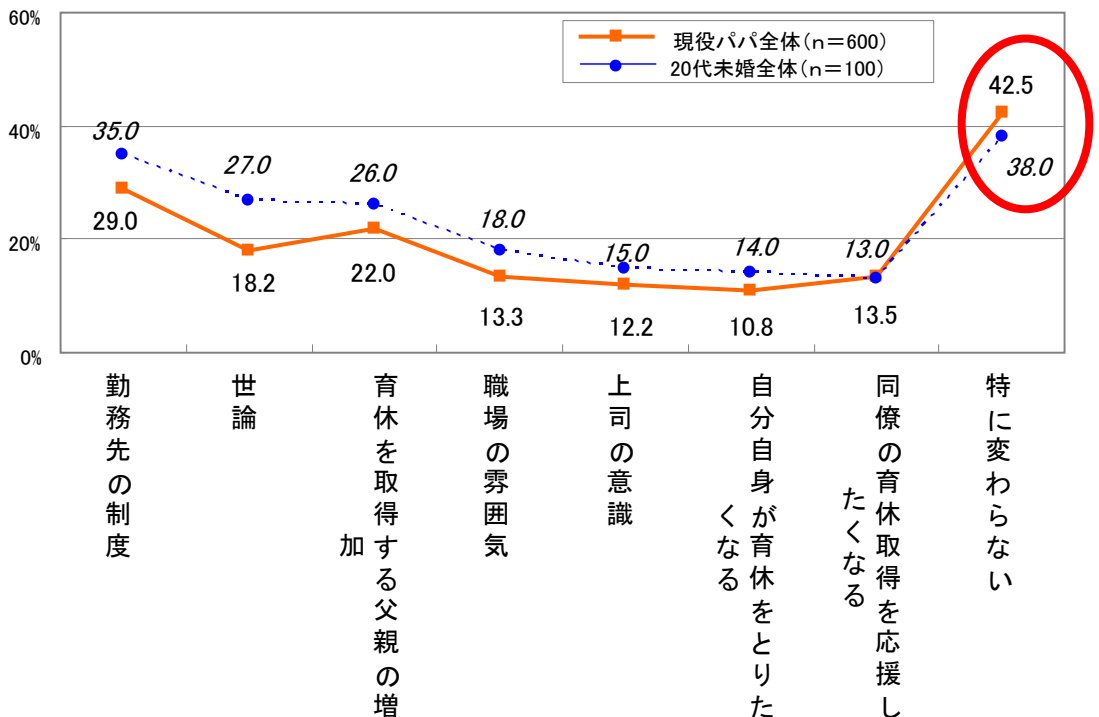
- ・来年(2010年6月)施行される「改正育休法」の内容認知率は、現役パパで約3割に留まる。
- ・改正による社会の変化には、4割は「何も変わらない」と考え、やや期待が薄い。

図9

改正育休法の認知



改正育休法の施行による社会変化



調査概要・回答者プロフィール

■調査概要

調査目的 : 現役パパと将来パパになると予想される20代未婚男性の育児休業取得の実態と意識を把握するとともに、改正育休法の認知とその影響を把握する

調査対象 : 第1子が0～12歳の子どもの持つ現役パパ 600名(長子の年齢0～3歳、4～6歳、小1～3、小4～6各150名) 20代未婚の男性(将来的に結婚したくない人を除く) 100名

調査内容 : 子育ての夫婦分担、子どもとの関わり方、育児に関する関わり度合いなど父親の育児に関する意識や行動および、育休取得に関する意識や行動、改正育児休業法の認知とその影響 など

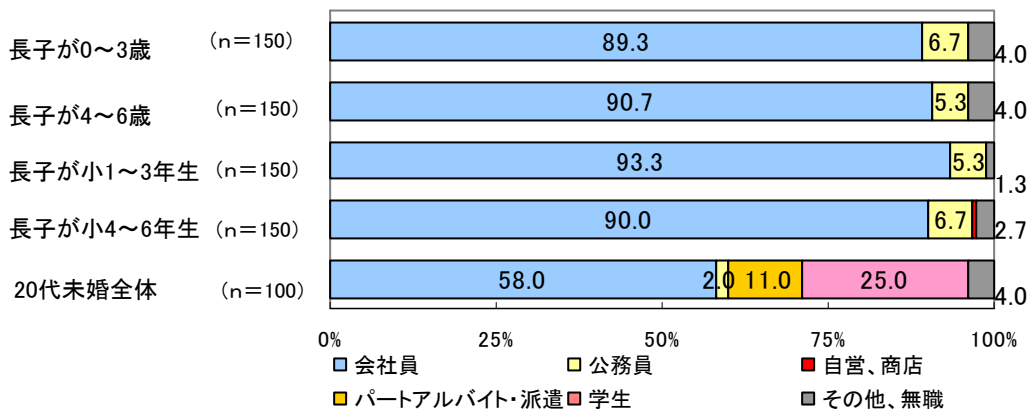
調査方法 : インターネット調査

調査地域 : 全国

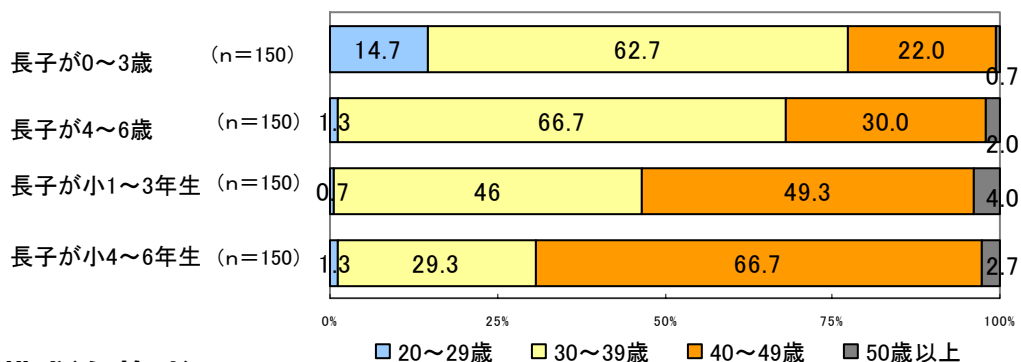
調査機関 : 2009年9月

■回答者プロフィール

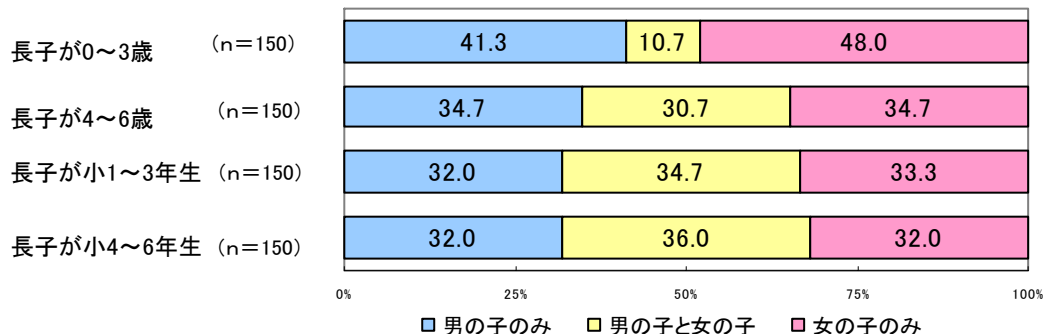
回答者の職業(既婚者子ども年齢別)



既婚者の年齢構成(子ども年齢別)



子どもの性別構成(年齢別)





＜本件に関するお問合せ先＞

(株)電通 プロジェクト・プロデュース局 ソーシャルビジネス室
次世代プロジェクト部

平井・森口・柴田 Tel:03-6216-8058